

小豆島におけるオオクチバスの生息状況

小西 雅樹 (近畿大学大学院)

香川県小豆島は同県内で最大の島であり、瀬戸内海では淡路島に次いで 2 番目の面積を誇る。フェリーなどの交通の便もよく、夏期などには多くの観光客が訪れる。島内にはため池やダムが多く点在し、一部の釣り人の間ではバス釣りのスポットとして知られており、たびたびバス釣り専門誌で取り上げられている。絶滅危惧種であるナガレホトケドジョウを始めとして、ドジョウやメダカなどの RDB 記載種が生息しており、それらの保全対策を立てるためにも、外来魚の食性、繁殖および分布状況などの基礎的知見の収集が必要である。しかし、小豆島での外来魚に関する知見は、ほとんどない。そこで、2012 年 7 月 29 日、30 日に小豆島内のため池およびダムでオオクチバスの分布調査を調べた。また 2013 年は 2012 年で得られた情報を基にオオクチバスを採集し、胃内容物調査を行った。

分布調査は外来魚の移殖が容易と考えられる道路沿いのため池およびダムを中心に調査を行った。調査方法は目視観察の後に、魚影が確認できなかった場合は釣りによって生息の有無を確認した。調査箇所は合計 22 地点で、土庄町が 7 地点、小豆島町が 15 地点である。

胃内容物調査は、採集したオオクチバスの胃を摘出、ホルマリンで固定後、オオクチバスに捕食された生物の同定を行った。